

S27c **3C 84 のフレア極初期におけるコアの構造変化の調査**

鈴木賢太 (東京大学)、永井洋 (国立天文台)、浅田圭一 (ASIAA)、紀基樹 (国立天文台)、土居明広 (JAXA)、亀野誠二 (鹿児島大学)、井上允 (ASIAA)、廣田朋也 (国立天文台)、松本尚子 (総合研究大学院大学)、小林秀行 (国立天文台)

電波銀河 3C 84 では、2005 年頃から現在まで長期的に電波フラックスが増加していることが報告されている。加えて 2008 年の段階において 3C 84 の電波コア付近での増光が報告された (Abdo et al. 2009)。3C 84 では電波源が繰り返し形成された痕跡があり、過去にジェットの噴出の活発化を繰り返してきたことが示唆される (Nagai et al. 2009)。今回のコアの増光も、ジェットの再噴出に起因するものである可能性がある。この解釈が正しければ、VLBI によるミリ秒スケールの観測によってジェットの形成極初期の構造の変化が確認されることが考えられる。

VERA では 3C 84 をキャリブレーションとして頻繁に観測しており、増光初期から現在に至るまで、一か月程度のインターバルの観測データをアーカイブから得ることができる。我々はそれらのデータを用い、増光が開始した 2006 年頃以降の 3C 84 のコア付近数ミリ秒の領域のイメージングを試みた。解析の結果、数年間にかけて 3C 84 のコア付近数ミリ秒の領域において増光とともに新たな電波源が現れる様子を確認することができた。

本ポスターでは永井洋氏の講演「VLBI 観測による 3C 84 の中心核ジェットの観測」の研究の一部として、特に増光開始時期に相当する 2005 年から 2008 年にかけての、VERA のアーカイブデータを用いた解析結果の詳細及び考察をまとめる。